

二十四 優勝旗

全国大会の優勝旗は私の後援者清浦奎吾伯爵にお願いして、私の旗じるしの言葉「感激」という二字を書いていたとき、「優勝、感激の旗」「感激旗」といつて使っているのです。昭和六年十二月、第一回全国大会を開いた時、優勝旗をつくろうと思ったのですが、どういうものをつくろうかと考えた末、清浦伯爵にお願いすることにしたのでした。清浦伯爵は天皇陛下のご諮問機関である枢密院の議長をなされ、総理大臣にもなられたお方でした。出来たから取りに来るようにいわれたのでいただきにあがったところが、「感激」という字を右から書いておられたのでした。私は左からとお願いしていたのですがそれを右から「感激」と書いておられたのでした。「自分が左書きすれば問題が起こる」といわれたのでした。それはその当時、清浦伯爵は日本書道院だったかそういう会の会長をしておられたので、それはやむを得ないことだったと思われるのです。それで書きいただいた「感激」という字をかたどり、金モールで縫い優勝旗として使っているのです。全国速記学生憧れの的になっていっているのです。ただ選抜大会の優勝旗は「清浦伯爵」といっても学生たちが知らないためこれはやむを得ず、私が下手ながら一片の真心を込めて、やはり「感激」という字を書いたものを使っているのです。

私は全国各府県で男女別々の競技会を開き、清浦伯爵にお書きいただいた優勝旗を二つずつつくって出